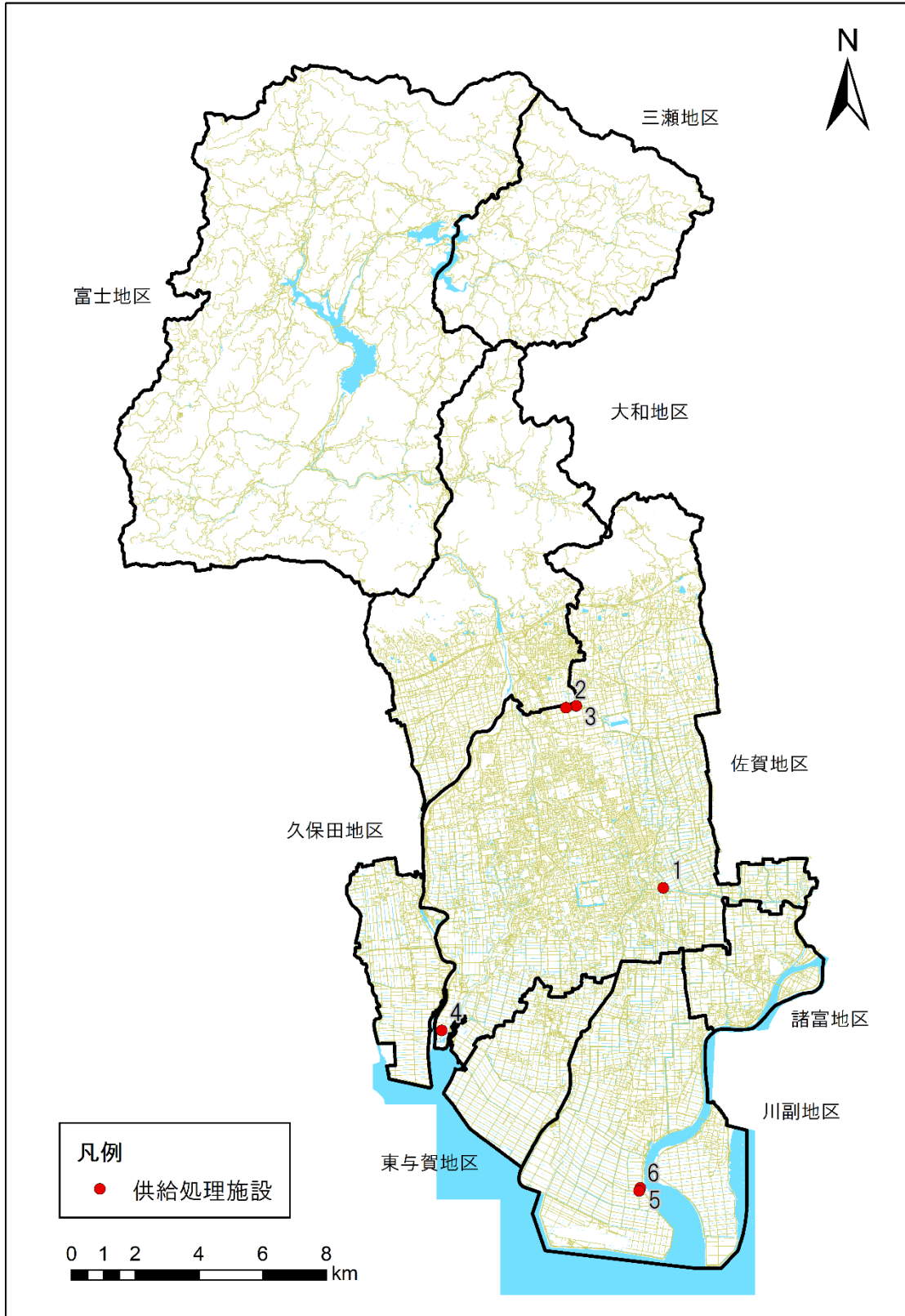


5. 公衆・衛生施設

5-1. 供給処理施設

1) 概要



■施設の配置状況（供給処理施設）

- 供給処理施設は、6 施設を保有しています。
- 本類型の延床面積は、約 39,700 m²となっており、全施設の 4.9%を占めています。
- 各施設の延床面積は、清掃工場が約 31,164 m²と最も大きく、次いで、衛生センターが約 3,813 m²となっています。
- 築年数は、延床面積の 21.5%が築 30 年以上経過しています。
- 耐震性能の状況は、延床面積の 94.5%が新耐震となっています。

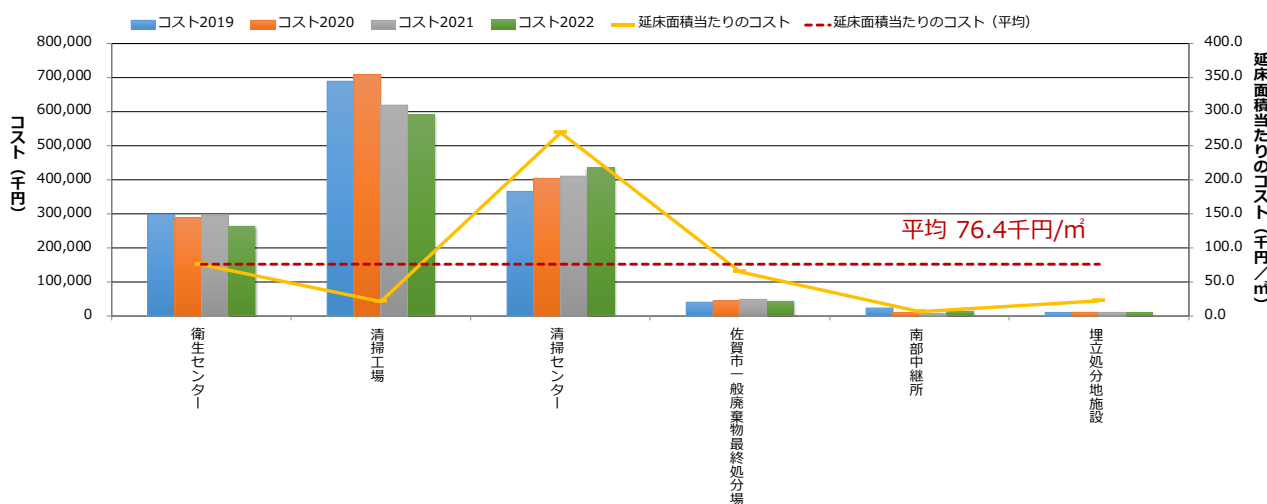
■施設の概要（供給処理施設）

No.	施設分類		施設名	地区区分	所管課	建築年月	延床面積 (m ²)	構造	耐震診断	耐震改修
	中分類	小分類								
1	公衆・衛生施設	供給処理施設	衛生センター	佐賀地区	衛生センター	1991年04月	3,812.60	RC造	新耐震	新耐震
2	公衆・衛生施設	供給処理施設	清掃工場	佐賀地区	循環型社会推進課	2002年12月	31,163.92	RC造	新耐震	新耐震
3	公衆・衛生施設	供給処理施設	清掃センター	佐賀地区	循環型社会推進課	1981年04月	1,501.67	RC造	実施済	未実施
4	公衆・衛生施設	供給処理施設	佐賀市一般廃棄物最終処分場	佐賀地区	循環型社会推進課	1981年09月	674.67	RC造	不明	不明
5	公衆・衛生施設	供給処理施設	南部中継所	川副地区	循環型社会推進課	1988年03月	2,097.88	※木造・木組	新耐震	新耐震
6	公衆・衛生施設	供給処理施設	埋立処分地施設	川副地区	循環型社会推進課	1988年03月	449.40	RC造	新耐震	新耐震
合計							39,700.14			

2) 現状把握

○コスト状況

- 供給処理施設の 4 カ年の平均コストは、1,408,467 千円となっており、全施設のコストの合計の 8.9%を占めています。
- 各施設のコストは、清掃工場が 651,558 千円と最も大きく、次いで、清掃センターが 403,741 千円となっています。
- 清掃工場は、管理委託料のコストが最も大きく、毎年 850,000 千円から 890,000 千円程度を要しています。
- 延床面積当たりの平均コストは、76.4 千円/m²です。各施設で見ると、清掃センターが 268.9 千円/m²と最も大きく、次いで、衛生センターが 75.0 千円/m²となっています。



■延床面積当たりのコスト比較（供給処理施設）

○利用状況

- 2022 年度の利用者数は、清掃工場が 105,697 人と最も多く、次いで、南部中継所が 15,410 人となっています。その他の 4 施設の利用者数は不明となっています。

3) 分析結果

○施設性能

【施設の躯体に関する性能】

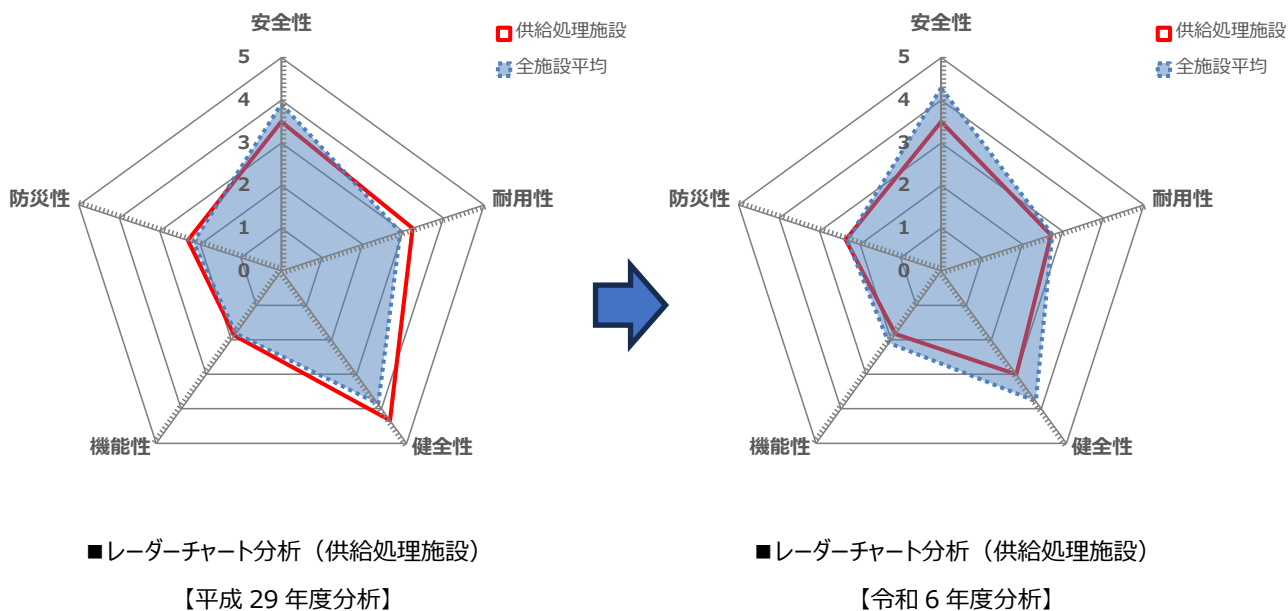
- 安全性：耐震性能が不明となっている、もしくは耐震改修が未実施となっています。
(例) 清掃センター、佐賀市一般廃棄物最終処分場
- 耐用性：老朽化が進行しているものの、耐用年数が経過していない施設があります。
(例) 南部中継所、埋立処分地施設 など
- 健全性：大規模改修や設備改修を実施している施設があります。
(例) 衛生センター、佐賀市一般廃棄物最終処分場

【施設の設備等に関する性能】

- 機能性：バリアフリーや環境配慮、アスベスト対策を実施している施設があります。
(例) 清掃工場、衛生センター、清掃センター など
- 防災性：地域防災計画の指定や避難拠点設備の設置をしている施設があります。
(例) 清掃工場、佐賀市一般廃棄物最終処分場、南部中継所 など

【性能の変化】

- 佐賀市一般廃棄物最終処分場や清掃工場の一部の棟で耐用年数を迎えたことにより、類型全体として耐用性が低下しています。また、南部中継所、埋立処分地施設が築 30 年を迎えたことにより、健全性が低下しています。



○施設評価

【評価指標】

- 利用・運営状況は、延べ床面積当たりのコストと負担費用額（市）にて評価しています。

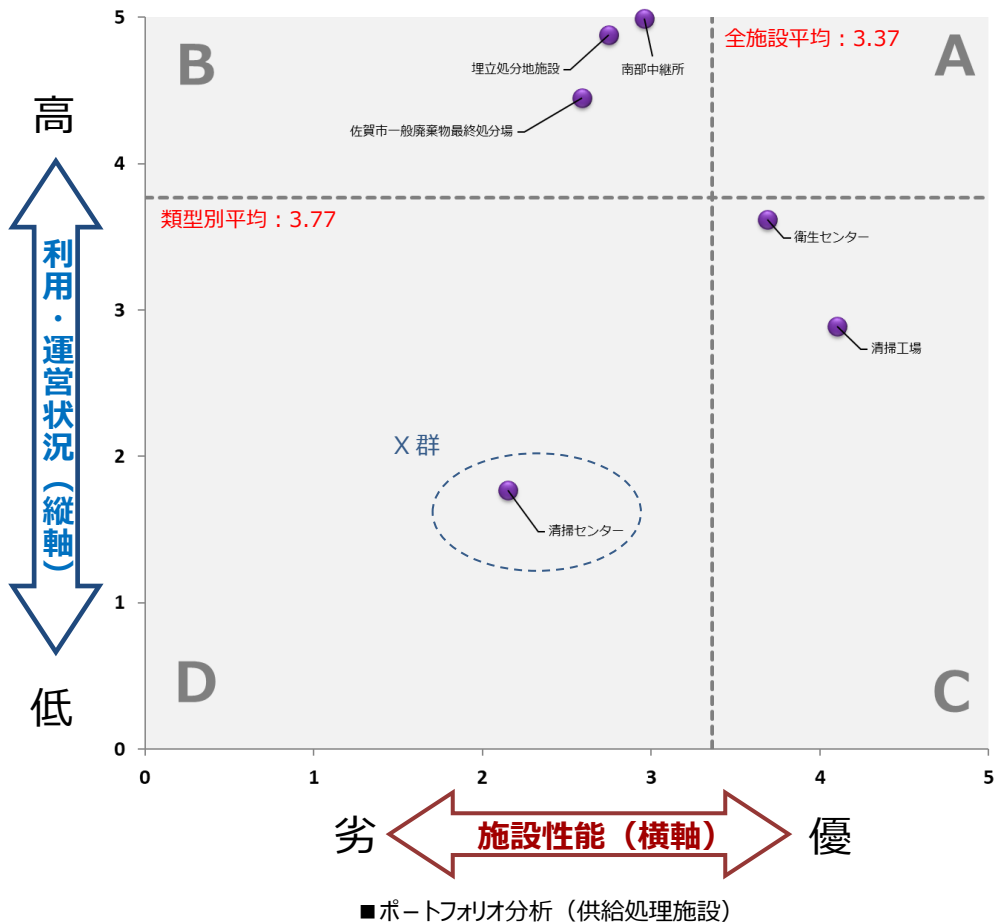
【評価区分の状況】

- 施設数は B が 3 施設、C が 2 施設、D が 1 施設です。
- 面積割合は B が 8%、C が 88%、D が 4%です。

【各施設の評価結果】

- A：施設性能が優れ、利用・運営状況も高い施設
(例) 該当なし
- B：施設性能が劣っているが、利用・運営状況は高い施設
(例) 南部中継所、埋立処分地施設、佐賀市一般廃棄物最終処分場
- C：施設性能が優れているが、利用・運営状況は低い施設
(例) 衛生センター、清掃工場
- D：施設性能が劣り、利用・運営状況も低い施設
(例) 清掃センター

【令和 6 年度分析】



○本類型の考察

供給処理施設は、施設性能が劣っているものの、利用・運営状況は高い傾向にある類型となっています。施設性能の劣化に伴い、建物に各種不具合が生じることが予想されます。

事後的保全による修繕費等の増加が懸念され、利用・運営状況にも影響する可能性があります。

今後検討すべき項目

- 利用・運営状況の改善に向けた取組みを検討する際には、利用の状況やコストの状況を把握していく必要があり、利用者数やサービス内容に対する施設規模やコストのバランスを見直し、それぞれの適正化が必要となります。
- 施設に余裕スペースがある場合は、施設性能が低い施設の機能を移転させ、複合化を図ることにより、住民サービスを充実させるなど、利用促進に向けた取組みを検討していく必要があります。

【特記事項】

(X群)

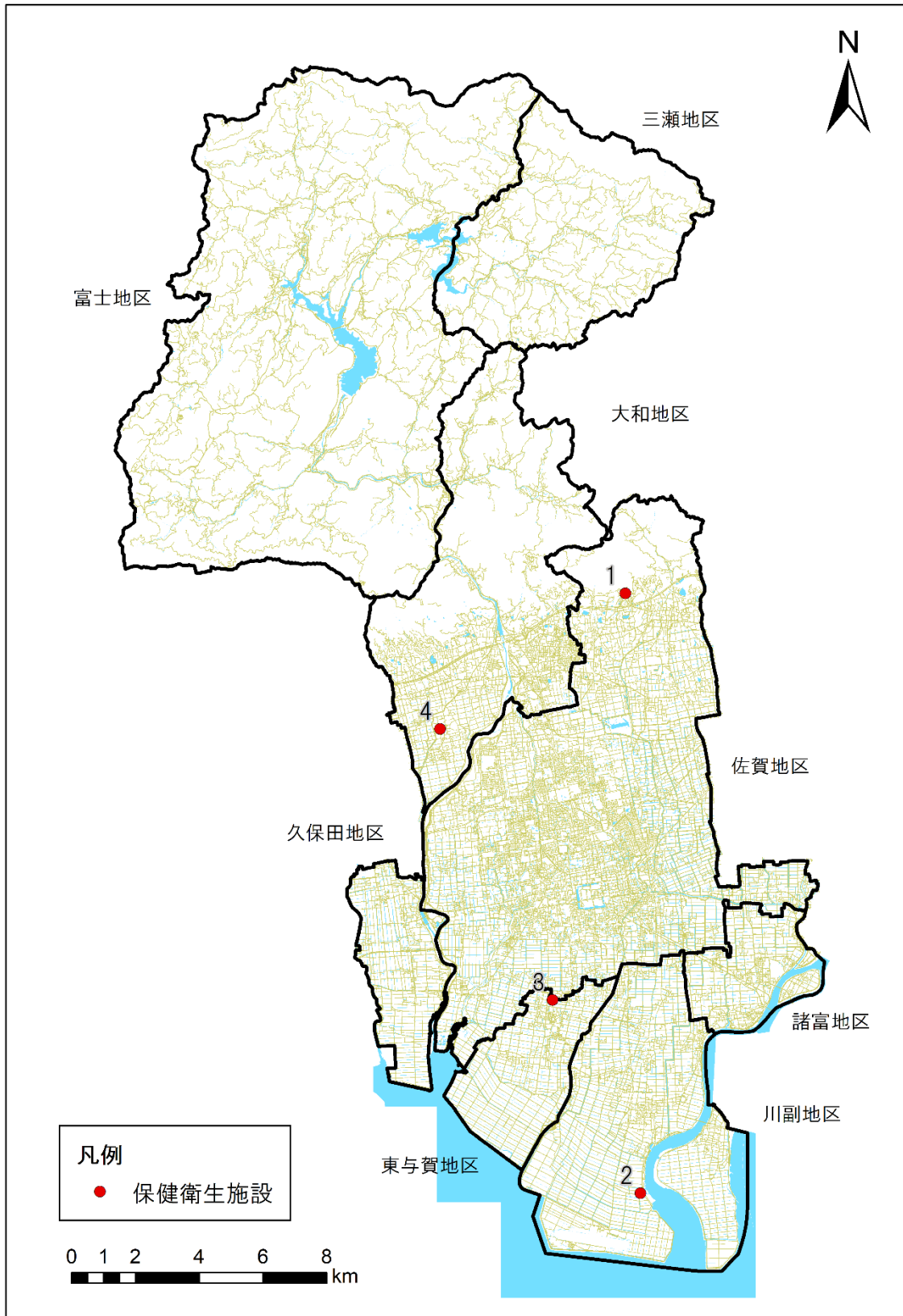
- 清掃センターは、施設性能、利用・運営状況ともに低い傾向にあります。今後、さらに施設の老朽化が進み、建物に各種不具合が生じることが予想されます。
- 施設の改修や更新などのハード面と、利用・運営状況の改善も含めたソフトの両面での取組みを検討していく必要があります。

(例)

- ・ 他の類型の施設との複合化や、コスト縮減効果の高い設備への更新などの検討
施設名：清掃センター

5 - 2. 保健衛生施設

1) 概要



■施設の配置状況（保健衛生施設）

- 保健衛生施設は、4 施設を保有しています。
- 本類型の延床面積は、約 1,691 m²となっており、全施設の 0.2%を占めています。
- 各施設の延床面積は、つくし斎場が約 1,336 m²と最も大きく、次いで、川副葬祭公園が約 176 m²となっています。
- 築年数は、全ての施設が築 30 年以上経過しています。
- 耐震性能の状況は、延床面積の 9.9%が新耐震となっています。

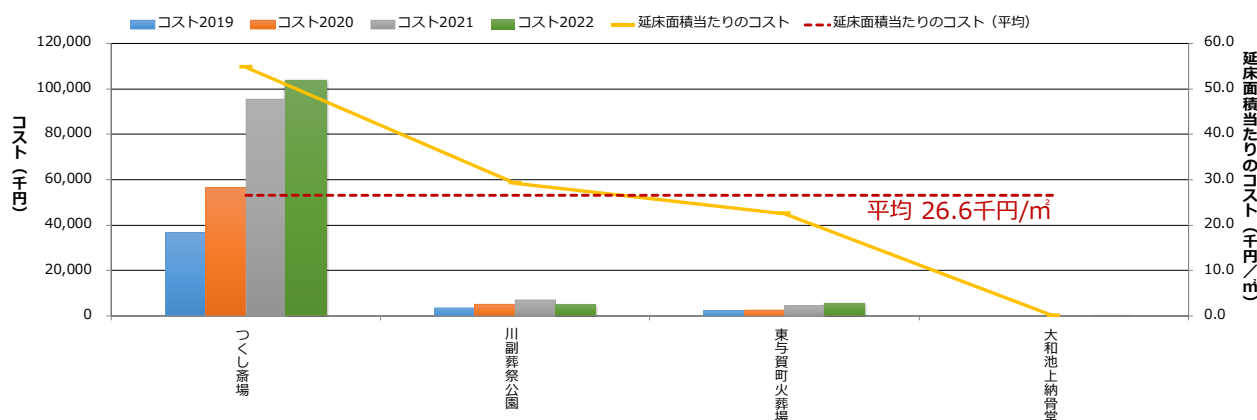
■施設の概要（保健衛生施設）

No.	施設分類		施設名	地区区分	所管課	建築年月	延床面積 (m ²)	構造	耐震診断	耐震改修
	中分類	小分類								
1	公衆・衛生施設	保健衛生施設	つくし斎場	佐賀地区	市民生活課	1980年03月	1,336.48	RC造	実施済	未実施
2	公衆・衛生施設	保健衛生施設	川副葬祭公園	川副地区	市民生活課	1977年03月	176.00	S造	実施済	未実施
3	公衆・衛生施設	保健衛生施設	東与賀町火葬場	東与賀地区	市民生活課	1987年04月	167.09	RC造	新耐震	新耐震
4	公衆・衛生施設	保健衛生施設	大和池上納骨堂	大和地区	人権・同和政策課	1979年02月	10.99	RC造	未実施	未実施
合計							1,690.56			

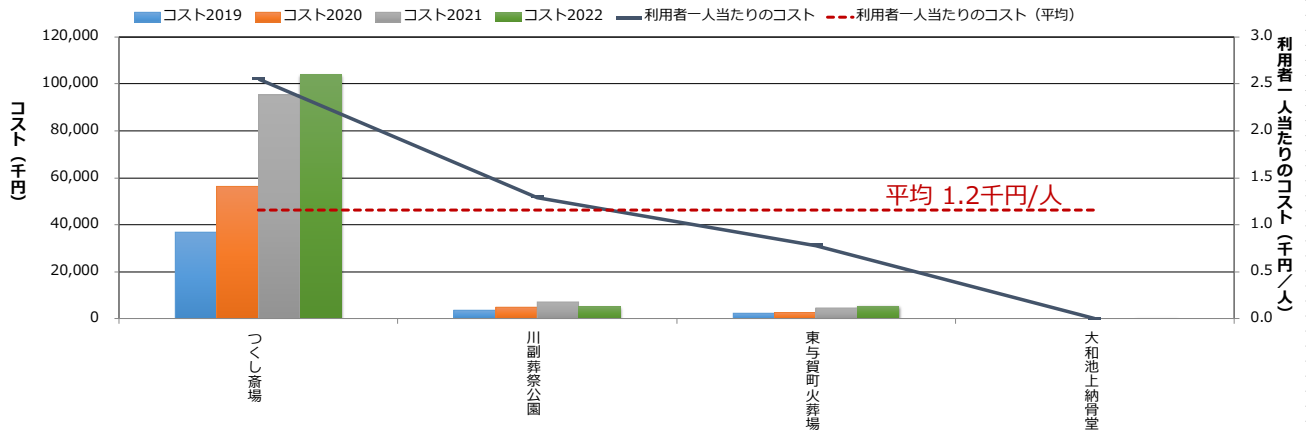
2) 現状把握

○コスト状況

- 保健衛生施設の 4 年の平均コストは、81,981 千円となっており、全施設の平均コストの合計の 0.5%を占めています。
- 各施設のコストは、つくし斎場が 73,081 千円と最も大きく、次いで、川副葬祭公園が 5,141 千円となっています。
- つくし斎場は、修繕費や臨時的経費などの維持管理費の増加に伴い、4 年を通してコストが増加傾向にあります。
- 延床面積当たりの平均コストは、26.6 千円/m²です。各施設でみると、つくし斎場が 54.7 千円/m²と最も大きく、次いで、川副葬祭公園が 29.2 千円/m²となっています。
※大和池上納骨堂は、コストが掛かっていない施設となります。
- 利用者一人当たりの平均コストは、1.2 千円/人です。各施設でみると、つくし斎場が 2.6 千円/人と最も大きく、次いで、川副葬祭公園が 1.3 千円/人となっています。
※大和池上納骨堂は、利用者人数が不明な施設となります。



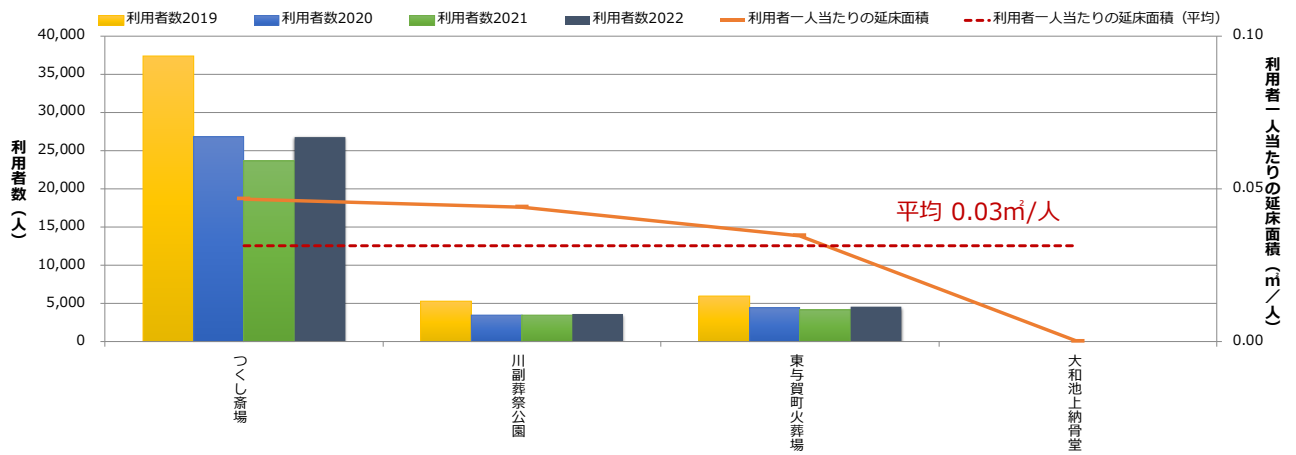
■延床面積当たりのコスト比較（保健衛生施設）



■利用者一人当たりのコスト比較 (保健衛生施設)

○利用状況

- 保健衛生施設の利用者一人当たりの平均延床面積は、0.03 m²/人となっています。つくし斎場、川副葬祭公園、東与賀町火葬場が平均を上回っています。
- 利用者数の推移は、3カ年で48,563人から35,029人と減少傾向となっています。
※大和池上納骨堂は、利用者人数が不明な施設となります。
- 各施設の平均利用者数は、つくし斎場が28,635人と最も多く、次いで、東与賀町火葬場が4,817人となっています。



■利用者数と一人当たりの延床面積 (保健衛生施設)

3) 分析結果

○施設性能

【施設の躯体に関する性能】

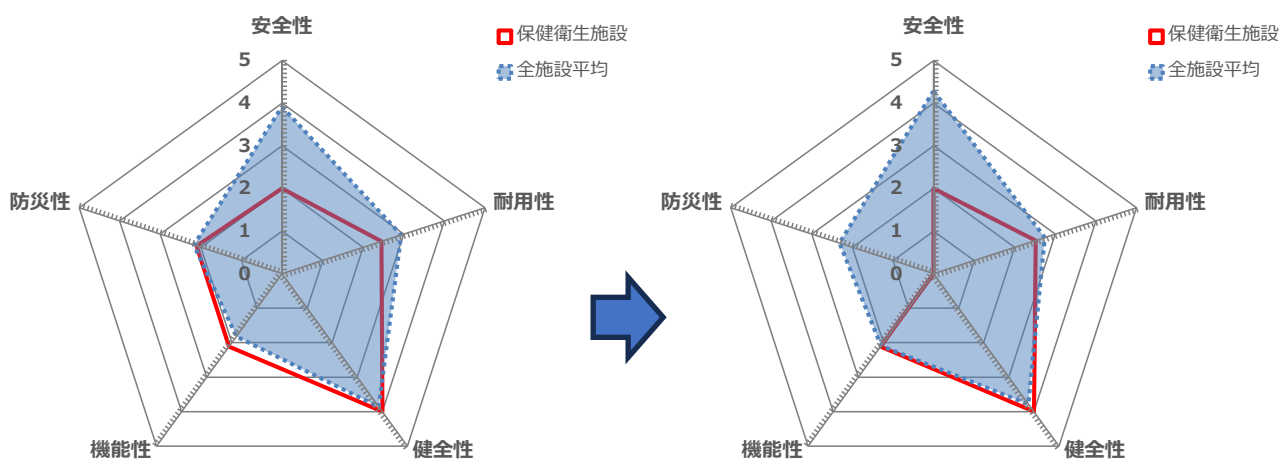
- 安全性：耐震改修が実施されていない施設があります。
(例) 川副葬祭公園 など
- 耐用性：耐用年数を経過している施設があります。
(例) 川副葬祭公園
- 健全性：大規模改修や設備改修を実施している施設があります。
(例) つくし斎場、川副葬祭公園 など

【施設の設備等に関する性能】

- 機能性：バリアフリーや環境配慮、アスベスト対策を実施している施設があります。
(例) つくし斎場、川副葬祭公園、東与賀町火葬場 など
- 防災性：特殊な施設のため評価対象外とする。

【性能の変化】

- 上記のとおり防災性を評価対象外としています。その他の評価項目においては大きな変化はみられません。



■レーダーチャート分析（保健衛生施設）

【平成 29 年度分析】

■レーダーチャート分析（保健衛生施設）

【令和 6 年度分析】

○施設評価

【評価指標】

- 利用・運営状況は、延べ床面積当たりのコストと負担費用額（市）にて評価しています。

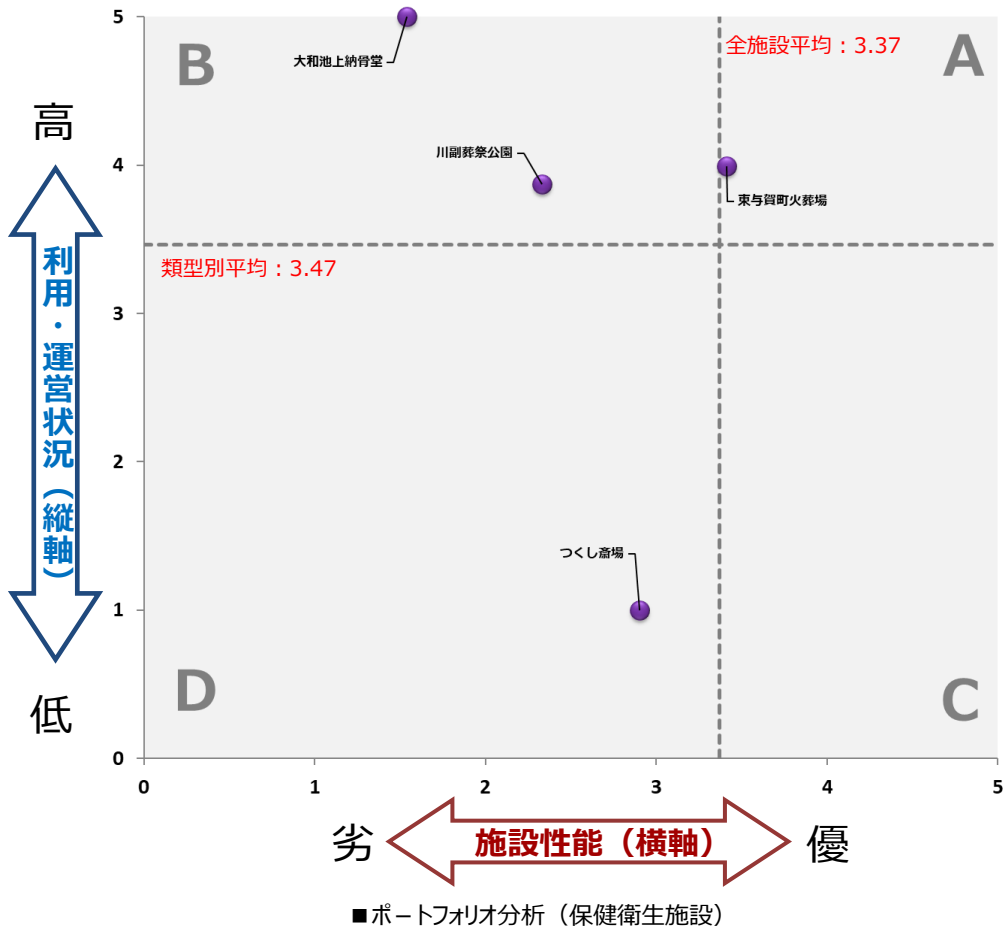
【評価区分の状況】

- 施設数はAが1施設、Bが2施設、Dが1施設です。
- 面積割合はAが10%、Bが11%、Dが79%です。

【各施設の評価結果】

- A：施設性能が優れ、利用・運営状況も高い施設
(例) 東与賀町火葬場
- B：施設性能が劣っているが、利用・運営状況は高い施設
(例) 川副葬祭公園、大和池上納骨堂
- C：施設性能が優れているが、利用・運営状況は低い施設
(例) 該当なし
- D：施設性能が劣り、利用・運営状況も低い施設
(例) つくし斎場

【令和6年度分析】



○本類型の考察

保健衛生施設は、施設性能が劣っているものの、利用・運営状況は高い傾向にある類型となっています。

老朽化の進行した施設が多く、利用を継続するうえでは改修・更新等が必要となってきます。

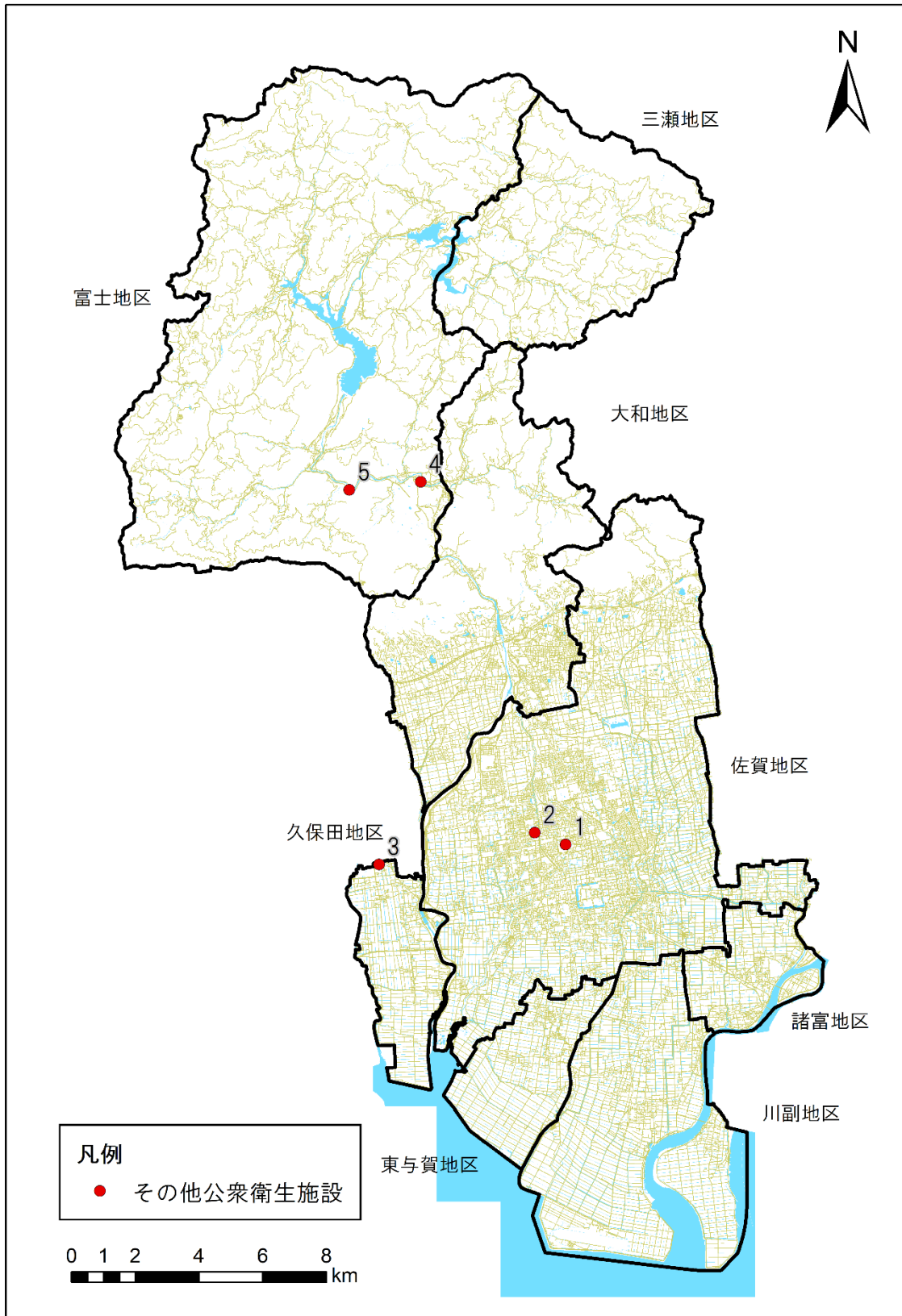
ただし、本類型は特殊施設であり、コストパフォーマンスによる施設の運営状況の判断や、他の施設との複合化を検討する施設ではないため、施設の安全性、耐用性、健全性などの施設状況の変化を確認しながら、今後も継続して維持していく必要があります。

今後検討すべき項目

- 施設性能の向上に向けた取組みを検討する際には、予防的保全を念頭に、今後の利活用の可能性を考慮し、緊急性を整理したうえで、改修・更新など適切な手法の選択が必要となります。
- 今後の社会の変化に応じた施設の統合の検討。

5-3. その他公衆衛生施設

1) 概要



■施設の配置状況（その他公衆衛生施設）

- その他公衆衛生施設は、5 施設を保有しています。
- 本類型の延床面積は、約 189 m²となっており、全施設の 0.02%を占めています。
- 各施設の延床面積は、神野公園こども遊園地トイレが約 71 m²と最も大きく、次いで、どんどんの森公衆トイレ施設が約 61m²となっています。
- いずれの施設も延床面積が 100 m²未満となっています。
- 築年数は、全ての施設が築 30 年未満の施設となっています。
- 耐震性能の状況は、全ての施設が新耐震となっています。

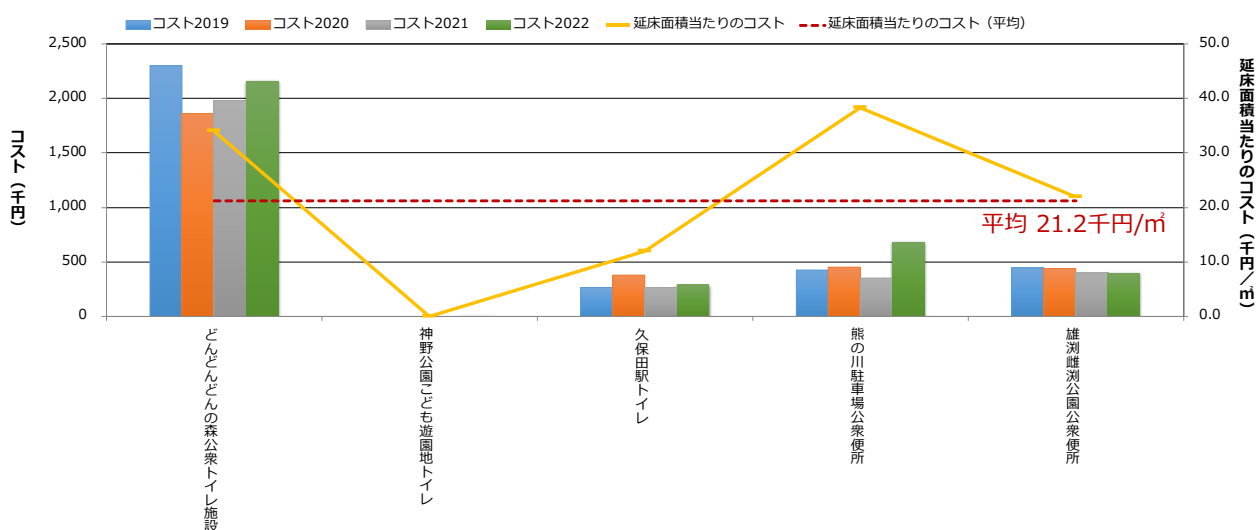
■施設の概要（その他公衆衛生施設）

No.	施設分類		施設名	地区区分	所管課	建築年月	延床面積 (m ²)	構造	耐震診断	耐震改修
	中分類	小分類								
1	公衆・衛生施設	その他公衆衛生施設	どんどんの森公衆トイレ施設	佐賀地区	環境政策課	1995年03月	60.98	RC造	新耐震	新耐震
2	公衆・衛生施設	その他公衆衛生施設	神野公園こども遊園地トイレ	佐賀地区	観光振興課	2006年03月	70.90	その他	新耐震	新耐震
3	公衆・衛生施設	その他公衆衛生施設	久保田駅トイレ	久保田地区	交通政策課	2007年03月	25.20	S造	新耐震	新耐震
4	公衆・衛生施設	その他公衆衛生施設	熊の川駐車場公衆便所	熊の川地区	北部建設事務所	1996年03月	12.47	PC造	新耐震	新耐震
5	公衆・衛生施設	その他公衆衛生施設	雄淵雄淵公園公衆便所	富士地区	北部建設事務所	1996年03月	19.14	PC造	新耐震	新耐震
合計							188.69			

2) 現状把握

○コスト状況

- その他公衆衛生施設の 4 年の平均コストは、3,272 千円となっており、全施設の平均コストの合計の 0.02%を占めています。
- 各施設のコストは、どんどんの森公衆トイレ施設が 2,075 千円と最も大きく、次いで、熊の川駐車場公衆便所が 478 千円となっています。
※神野公園こども遊園地トイレは、コストが掛かっていない施設となります。
- 延床面積当たりの平均コストは、21.2 千円/m²です。各施設で見ると、熊の川駐車場公衆便所が 38.3 千円/m²と最も大きく、次いで、どんどんの森公衆トイレ施設が 34.0 千円/m²となっています。



■延床面積当たりのコスト比較（その他公衆衛生施設）

○利用状況

- 該当なし

3) 分析結果

○施設性能

【施設の躯体に関する性能】

安全性：いずれの施設も耐震性能が新耐震基準を満足しています。

(例) どんどんの森公衆トイレ施設、神野公園こども遊園地トイレ など

耐用性：耐用年数を経過している施設はありません。

(例) どんどんの森公衆トイレ施設、神野公園こども遊園地トイレ など

健全性：築 30 年を経過した施設はありません。

【施設の設備等に関する性能】

機能性：バリアフリーや環境配慮、アスベスト対策を実施している施設があります。

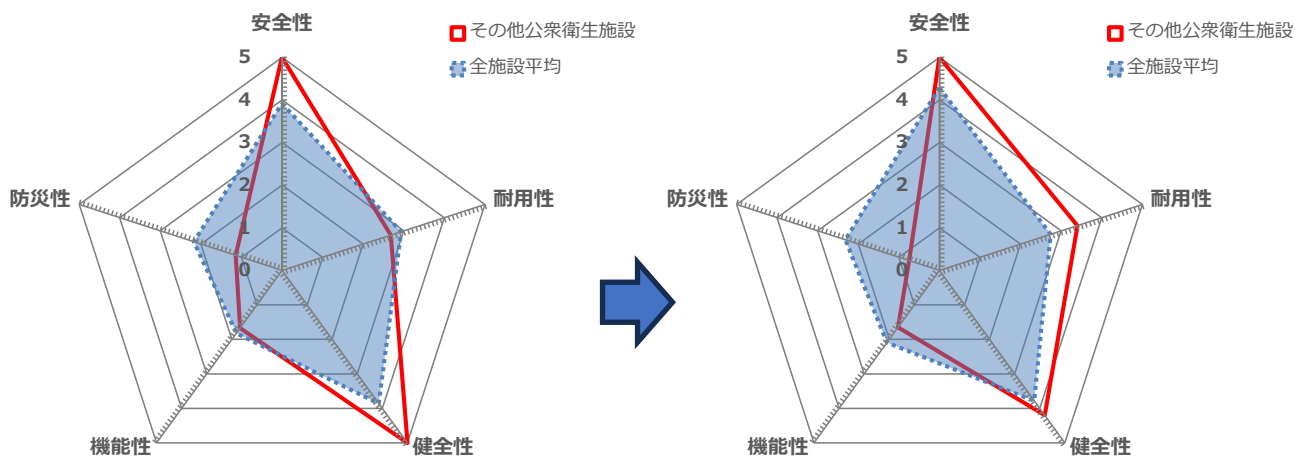
(例) どんどんの森公衆トイレ施設、久保田駅トイレ など

防災性：地域防災計画の指定や避難拠点設備の設置をしていない施設や不明となっている施設があります。

(例) どんどんの森公衆トイレ施設、久保田駅トイレ など

【性能の変化】

- 耐用年数を迎えた施設の除外により、類型全体として耐用性、健全性は向上、防災性は低下しています。



■レーダーチャート分析（その他公衆衛生施設）

【平成 29 年度分析】

■レーダーチャート分析（その他公衆衛生施設）

【令和 6 年度分析】

○施設評価

【評価指標】

- 利用・運営状況は、延べ床面積当たりのコストと負担費用額（市）にて評価しています。

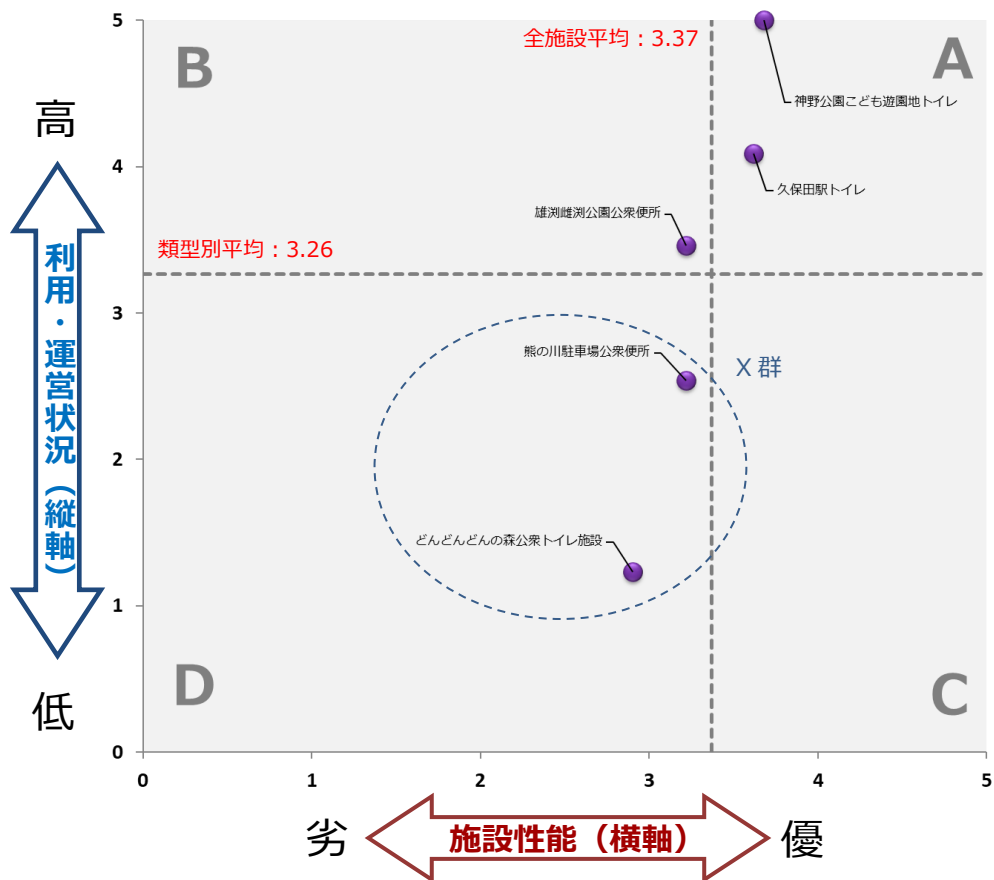
【評価区分の状況】

- 施設数は A が 2 施設、B が 1 施設、D が 2 施設です。
- 面積割合は A が 51%、B が 10%、D が 39%です。

【各施設の評価結果】

- A：施設性能が優れ、利用・運営状況も高い施設
 (例) 神野公園こども遊園地トイレ、久保田駅トイレ
- B：施設性能が劣っているが、利用・運営状況は高い施設
 (例) 雄渕雌渕公園公衆便所
- C：施設性能が優れているが、利用・運営状況は低い施設
 (例) 該当なし
- D：施設性能が劣り、利用・運営状況も低い施設
 (例) 熊の川駐車場公衆便所、どんどんの森公衆トイレ施設

【令和 6 年度分析】



■ ポートフォリオ分析 (その他公衆衛生施設)

○本類型の考察

その他公衆衛生施設は、施設性能が劣っており、利用・運営状況にばらつきのある類型となっています。老朽化の進行した施設が多く、利用を継続するうえでは改修・更新等が必要となってきます。

今後検討すべき項目

- 利用・運営状況の改善に向けた取組みを検討する際には、利用の状況やコストの状況を把握していく必要があり、利用者数やサービス内容に対する施設規模やコストのバランスを見直し、それぞれの適正化が必要となります。
- 施設に余裕スペースがある場合は、施設性能が低い施設の機能を移転させ、複合化を図ることにより、住民サービスを充実させるなど、利用促進に向けた取組みを検討していく必要があります。

【特記事項】

(X群)

- 熊の川駐車場公衆便所、どんどんの森公衆トイレ施設は、おおむね施設性能が劣っており、利用・運営状況も低い傾向にあります。
- 現状の施設を適切な管理により維持するとともに、利用・運営状況の改善に向けたソフト面での取組みを検討していく必要があります。

(例)

- ・ 利用の状況やコストの状況を把握し、利用者数やサービス内容に対する施設規模やコストのバランスの見直しを行う など

施設名：熊の川駐車場公衆便所、どんどんの森公衆トイレ施設